果樹

12月の柑橘園管理

果　樹
鶴浜　研二
上島営農指導センター
080-1771-4257

中晩柑については収穫まで1か月を切る品種も出てきました。

長期予報を見ると平年より低い予報が出ています。今後の天候に注意し、収穫に合わせた貯蔵病害対策を行いましょう。

1. 病害虫防除

ベンレート水和剤＋ベフラン液剤25の混用剤は収穫1カ月前に散布を行い、効果的な防除に努めましょう。

対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 温州	収穫前日数 中晩柑	使用回数	備考
貯蔵病害	ベンレート水和剤	4,000倍	前日		2	混用散布 ※1回目散布
	ベフラン液剤25	2,000倍	前日		2	
	ベフトップジンフロアブル	1,500倍	7日前	前日	2	※2回目散布
越冬害虫	ハーベストオイル	60倍	―			温州みかん対象

※ベフラン液剤25とベフトップジン（F）は同一成分（イミノクタジン酢酸塩）を含む為、合わせて2回までとなります。

※ハダニが発生している場合は、各担当地区の指導員に相談下さい。

2. へた落ち防止

収穫から長期間貯蔵を行う品種では、へた落ち防止の為散布を行いましょう。

また、すでに河内晩柑等でマデックEWを使用された園では使用する事ができませんので、ご注意下さい。

対象品種	農薬名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
かんきつ	マデックEW	2,000倍	20～10日前まで	1回

3. 樹勢回復対策

収穫が終わった品種ではまず十分にかん水を行い、その後チッ素主体の葉面散布で樹勢回復を行いましょう。

	資材名	希釈倍数又は袋数	備　考
葉面散布（N主体）	尿素又は神協スピリッツ又はアミノジューシーN 14	500倍	3回以上集中散布しましょう
施　肥	ハイヤ1号	4袋／10ａ	温州みかん対象

畜産

子牛の肺炎対策について

畜　産
井上　正一
黒毛牛検定センター
080-1729-1626

子牛のもっとも多い疾病に肺炎があります。疾病率は約50％ともいわれており、畜産経営に悪影響を与えている疾病の一つだと考えられます。

今回は子牛の肺炎についてお伝えいたします。

①子牛の肺炎の原因

肺炎の原因は主に下記の細菌やウイルスです。

- マイコプラズマ
- 細菌（パルツレラ、マンヘミア、ボビス）
- ウイルス（IBR，RS，PI3）

代表的な要因として

- 出生時にしっかり初乳を飲んでいない。
- 換気が悪く、糞尿から悪い空気が畜舎内に充満する。
- 敷き料が湿っており、体温が下がり、免疫が低下する。
- 気温が低く（ウイルスは気温が低い方が活発化しやすい）

生後1ケ月から3ケ月を目安に発病します。一つの要因だけではなく、様々の要因が絡み合っていますので、原因を特定するのが困難な疾病です。

肺炎は子牛の成長や発育を阻害するとともに、同じ牛舎にいる他の牛にも悪影響を及ぼします。

②予防方法

肺炎は完全になくすことはできませんが、予防によって少なくすることはできます。予防方法は下記の通りです。

- 初乳をしっかり給与し、子牛の免疫を高める。
- 母牛へのワクチン接種によって、子牛への移行抗体を強める。
- 母牛の分娩時30～60日前に配合飼料を増量して、子牛の状態を向上させる。
- 密飼いをさける
- 牛舎の環境を良くする（換気・敷料・気温調整）
- 5種混合ワクチンの接種

上記の対策を実施して肺炎による経済的損失の影響を最小限にとどめ、安定した畜産経営を目指しましょう。

～ＪＡあまくさ広報誌『あまくさ』11月号のお詫びと訂正～

日頃よりＪＡ あまくさ広報誌『あまくさ』をご愛読いただき誠にありがとうございます。

さて、2021年11月1日発行の『あまくさ11月号』にて次のとおり誤りがありました。謹んでお詫び申し上げますとともに、右記の通り訂正いたします。

記

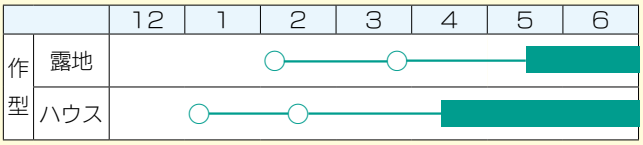
P7　下島営農指導センターの電話番号

誤	正
0969-45-8344	0969-78-4677

野菜

春インゲン栽培

野　菜
小林　優介
下島営農指導センター
080-1729-1635



＊備考…○（播種）、■（収穫期間）

品種…ベストクロップキセラ

本圃の準備…土壌が肥沃で排水・保水性が良く耕土が深い圃場を選定する。

施肥…肥料は有機質肥料か緩効性肥料を用いる。また、追肥については開花時期から着果時期が最も肥料吸収が大きいため開花前5日頃より行う。

施肥量（kg／10a）

	窒素	リン酸	加里
基肥	13	20	13
追肥	10	10	10
合計	23	30	23

畦立て…30 cm以上の高畦を作り、露地の場合は地温を上げるために黒マルチを使用する。 マルチ被服を行う場合は土壌水分が適湿状態で行う。

播種…畦幅 1.5 ～2m、条間 40 cm、株間 35 cmとし、1穴当たり2～3粒播き軽く覆土を行う。

発芽までは極力かん水を控え、不足気味であれば敷きわらを植え穴にかぶせやや土を湿らせる程度にかん水を行う。

＊立ち枯れ病予防にタチガレン液剤 1000 倍を潅注する。

間引き…発芽後本葉2枚が展開した頃に1本に間引きする。間引き後は土寄せを行い株の安定を図る。

潅水… 生育初期は乾燥気味になるためこまめに行い、生育が妨げられないようにする。開花時期頃より土壌水分が不足場合のみチューブで天候をみながら4～5日おきに潅水する。必ず晴天日の午前中に行う。

温度管理…・昼間温度適温 23 ～ 26℃
・夜間温度適温 15 ～ 17℃
・地 温 の 適 温 22 ～ 23℃

誘引・摘葉・・・誘引は必ず行い、光線の確保と養分の転流がスムーズに行われるようにする。

混み合う葉や病葉、老化葉は早めに摘葉を行い株の内部に日光を当てる。1度に多くの摘葉を行うと草勢が低下するので注意する。

生育順調！ノーラップレタス収穫スタート

JAあまくさ園芸部会大矢野支部ノーラップレタス部会13名は11月24日より本格的に収穫がスタートしました。今年の生育状況について部会長の池田康弘さんは「10月に植え付けた当初は高温、干ばつで苦労したが収穫時期になると順調に育っているので安心した。部会員一同雨の日も風の日も、大切に育てたレタスを全国の皆様へ届けたい。」と話しました。

ノーラップレタスは、3月上旬まで生産・収穫される予定です。

レタスの出来具合を観察する池田部会長

子牛セリ市開催

11月17日に天草家畜市場で子牛セリ市が開催されました。子牛のセリ市は奇数月の17日に開催されています。

JAあまくさ管内からは162（全体で296頭）の子牛がセリにかけられ、平均価格740千円（全体平均は746千円）となり、前回9月のセリと比較すると39千円（全体では52千円）上回る成績となりました。

下田副組合長（写真左）も応援に駆けつけ、セリを見守りました。

加温デコポン目均し会

加温デコポンの収穫を目前に控え、11月11日に中央支所2階会議室で目均し会を開催しました。生育状況・収穫対策および出荷要領について説明が行われ、最後に現物で目均しを行いました。

JAあまくさ管内では毎年11月下旬から12月上旬に加温デコポンの収穫・出荷が行われています。